

川崎町 川崎町立富岡小学校(総合的な学習の時間)「地域の伝統文化を調べよう」

- 市町名 川崎町
- 学校名 川崎町立富岡小学校
- 期 日 令和7年12月4日(木)
- 内 容 総合的な学習の時間(5・6年)
「地域の伝統文化を調べよう」
- 講 師 宮城蔵王支倉豊年踊り保存会
の皆様



○児童の声

- ・哲さんの指導は厳しいですが、その代わり自分たちだけで練習するとき以上の成果がでるので楽しみにしています。1月からは本格的に5年生へ太鼓を引き継ぎます。哲さんに教わったことやこれまで自分たちがやってきたことをしっかりと後輩に引き継いでいきたいです。特にしっかりと引き継ぎたいところが二つあります。一つ目は、唄が入る「カッカカ」の部分です。ここは全員で合わせるのが大変なので、みんなで心をつにして頑張っしてほしいです。二つ目は、振りかぶりです。ここは、6年生の今でも難しく感じるようです。引継ぎをしたあとも、確認できるように声掛けをしていきます。

(6年 佐藤 葵羽さん)

- ・哲さんから礼儀や支倉豊年太鼓の歴史を教わりました。練習で努力したことは、みんなと太鼓を合わせることです。始めはとても難しかった

たですが、哲さんや保存会の皆さんに教わったお陰でできるようになりました。これからの引継ぎでは、唄の「カッカカ」を合わせるのが難しいので、教えるのを頑張ります。

(6年 大宮 快斗さん)

- ・唄の練習をして、保存会の方とぼくたちの音程がちがうと感じました。ただ大きな声を出して歌うのではなく、音程やテンポが大事だと教わりました。年明けの引継ぎに向けて、哲さんに教わったように、チームワークを大事にして練習をしたいです。

(5年 佐藤 優空さん)

- ・練習を通してやってみて、やっぱり唄の入りが難しいと感じました。太鼓と合わせて何回もやっていくうちに、みんな声がどんどん大きくなって、唄の入りも少しだけ上達した気がします。6年生は、休憩の時間に哲さんに「休んでいいよ。」と言われても、自分たちで進んでここを練習しようと言ってやっていたのがかっこ良かったです。自分たちも今の6年生のように自分たちから進んで練習できる6年生になりたいと思いました。冬休み明けの引継ぎに向けて、今の6年生も一生懸命にやっていたので、私も一生懸命にしてしっかりと集中して頑張ろうと思います。

(5年 鈴木 美音さん)



○教職員の声

佐山哲さんをはじめ支倉豊年太鼓保存会の皆様には、5月のスポーツデイや6月の支倉常長まつりでの発表に向けて、大変お世話になりました。6年生の子供たちは、これまでの上級生の姿を見て、「あんなふうに叩けるようになりたい」と憧れをもち、前向きに練習してきました。保存会の皆様には、太鼓の技術だけでなく、教えてくださる方への礼儀や練習に向かう態度、チームワークの大切さについても教えていただきました。さらに練習のたびに太鼓や唄、踊りへの熱い思いをお話していただきました。おかげで子供たちはさらに熱心に練習に臨むことができたと思います。今回の練習では、5年生に正しく引き継ぐという目標をもち、これまでとはまた違った思いで練習に取り組むことができました。5年生の子供たちも、今回の練習を通して、6年生から伝統を引き継ぐ責任を感じていたようです。子供たちはまた新たな目標に向かって団結し、今まで御指導いただいたことを胸に、自信を持って年明けの引継ぎに臨むことができると思います。今までの御指導、ありがとうございました。

(5・6年担任 住吉 礼香)



○保存会の皆様より

宮城蔵王支倉豊年踊り保存会では「地域に開かれた学校づくり推進」の一環として、富岡小学校、

旧支倉小学校にて1998年（平成10年）から支倉豊年踊りの指導を行ってきました。

指導を通じて太鼓や唄、踊り等の上達だけでなく、子供たちが工夫しながら技を高め、互いに協力しあって一つの伝統を作り上げていく事の大切さを分かってもらえるよう心掛けております。

長年指導を行ってきたことにより、今では運動会で保護者や地域の方々が子供たちと一緒に踊る姿は、初代会長の目指した「地域に根ざした郷土芸能」であり、「継いでいくこと」を中心とした伝統芸能の本質だと感じています。

近年では「支倉常長まつり」への参加、保存会とのコラボレーション参加をしています。

また、上級生が下級生を指導する取組も行われ、先生方の温かい見守りの中で子供たちの創意工夫の向上も図られています。

子供たちの一生懸命な姿を通して逆に学びを与えていただきありがたく思っております。

(宮城蔵王支倉豊年踊り保存会一同)



○教育事務所から

伝統を守り、引き継いできた地域の皆様の思いを、子供たちがしっかりと受け止め、真剣なまなざしで練習する姿に感動いたしました。地域に根ざした郷土芸能として、学校と地域が連携しながら引き継がれていくことを切に願っております。